



外国人とともに生きる大田・市民ネットワーク 会報

つうしん
通信

No.122
2020-1.1

NEWSLETTER

連載 第二回 移住者と連帯する全国フォーラム・東京 2019 の参加報告

2019年6月1～2日の二日間にわたって日本教育会館にて開催されました。OCNet通信では121号122号の2回に分けて参加者の報告を掲載します。

第5分科会 子ども・若者 移住者の子どもと若者の学びと進路

OCNet相談 西尾 加朋

移住連の「全国フォーラム・東京2019」の「子ども・若者」分科会で、私は4名の報告者のうちの一人、多文化共生教育ネットワークかながわ(ME-net)代表の高橋徹さんの在留資格に関する報告を引き継ぐ形で、「高校卒業後の外国籍生徒の進路を阻む壁への対応—救済策の実例と今後の課題—」と題して報告を行った。昨年度から始まった、主な内容は、法務省の「家族滞在」在留資格を持つ高校生を対象とした救済措置となる新制度を適用して、卒業後の就労が可能になった実際の事例と、そこから浮かび上がる問題と課題である。

新制度とは、「家族滞在」の在留資格を有し、日本で一定期間以上の義務教育を継続したのち日本の高校に進学し卒業後就労を予定する生徒が、本人の義務教育の在学期間によって、就労が可能な「定住者」か「特定活動」のどちらかの在留資格に変更できる措置である。以下はその措置を適用した実際の事例である。

A高校の生徒Bは、「技能」在留資格を持つ料理人である親が、就労先の店で搾取や虐待、不当解雇に遭い、失業状態が続いていることを以前から訴えていた。親自身の就労が安定しないと、親と子両方の在留資格にも影響が及ぶ。しかしB

の親は自らの現状の改善に取り組む気配がない。B、A高校教員、支援者(西尾)で話し合い、高校卒業後のBの将来を考慮して、上記措置を適用して扶養者である親から在留資格を切り離すことにした。Bは企業の内定を得て、上記措置の在留資格変更申請を行い、親から独立して「定住者」在留資格を得て、卒業後就職を果たした。こうしてBは就労できる道を確認することができたが、元々目指していた保育士の道につながる進路確保というわけではなかった。保育士になるには専門学校や短大等で学び、国家資格に合格してから就労する。当初、三者での相談の過程では高校卒業後「家族滞在」資格のままで進学し、保育士として就職が決まったら「定住者」に変更(高校既卒者も変更可能)するか、卒業時に一旦は就職先を決めて「定住者」に変更してから、働きながら通信制の学校で学び、保育士になるなどの道を模索した。しかしBは、自分の希望の道を進むには種々の困難があると思ったのか、保育士をあきらめ一般企業に就職する道を選んだ。これについては、生徒自身が早期から自分の希望の進路を考え、かつ早めに在留資格や各方面の情報や支援が受けられていたら、希望に近づく道がもう少し開いたのではないかと考える。

Bのように、子どもの在留資格の問題は、親の問題に巻き込まれて発生することが多い。こうした問題を未然に防ぐには制度の周知が必要だが、入管が外国人本人に対して制度を周知させる努力を積極的にしているようには概して見受けられない。この救済措置制度についても、正しい情報が外国籍生徒に伝わっていくのかが疑問である。そうなると現場の教員や支援者が頼みになるが、在留資格制度について理解していないと適用は難しい。また、この措置は就労が決まっていなと適用できないので、在留資格上就労が可能な生徒を採用したい企業との間に、齟齬が生じる。さらに、「家族資格」在留資格の生徒の進路が阻まれている原因の一つは、昨今の永住許可の厳格化である。永住申請が許可されないと、「家族滞

◆移住連全国フォーラム参加スタッフの感想

初めて、移住連フォーラムに参加して少し驚いたことがいくつかありました。

1つ目は、私は、亡夫 鈴木昭彦の移住連フォーラム事務局時代の疲れきった様子を見ていたので、大変なフォーラムだと思っていましたが、今回世話人や報告者の皆様は当時の夫とは違い、スマートに活動している事にちょっぴり驚きました。報告を担当された西尾さん、琴崎さん、角田先生ご苦労様でした。

2つ目はTBSラジオ荻上チキセッションに出演される弁護士や研究者が数人おられたことに少し驚きました。3つ目は、外国製の両親を持つ女性が自己紹介の折、「私はハーフではなく、ダブルです。」と話されたことです。ハーフの意味は父母の国の習慣や文化を半分ずつ持っているという意味ですが、ネガティブな印象を持つ人も少なくないようです。一方ダブルの意味は、異なった複数の文化の中で育っていくことを事実のままに捉えて、「人は違って当たり前」という意識を育みながら、「自分は自分で良い」という前向きな姿勢で生きていく事だと思います。人との違いを認め合うという事は、誰のせいにするのではなく、誰をも攻めずに生きていくので、辛い時もありますが内面から自分を強くし、人に寛容になっていく事だと思います。多文化共生と日頃よく耳にしますがそれを実践していく時大切なこ

在」生徒は就労が自由な在留資格がいつまでたっても得られない状況が続く。

ちなみに、高校から日本の学校に入学した「家族滞在」資格者に対しては、上記の措置は適用されない。他にも、「公用」「特定活動」「留学」などの在留資格を持つ高校生が、高卒後就職を開始する希望を持っていても、やはり在留資格で道を阻まれ、現時点では救済措置はない。

人として生きる限り、移住者が日本で生活していても、家庭で子どもを育て、子どもが巣立つことは何ら変わりのないことである。国は、全ての者が希望に応じたキャリア形成や労働や職業を選ぶ権利を確保できるよう努めることが必要である。そして、就労可能な在留資格を有していない、学齢期を終えた若者に対して、もっと柔軟な措置を行うことが問われている。

とは、「違うものを認め合う」ということではないでしょうか。自分にも他人にも寛容な姿勢を持つことで、多文化共生へと繋がっていくのではないかと思います。女性の話から教えられました。

私は移住連フォーラムに初めて参加して、「寛容さ」について学ばされました。

(事業部 帰国者センター：鈴木 洋子)

毎年開催される移住連全国フォーラムが20年ぶりに東京で開催され、OCNetからも多くのスタッフが参加することができました。15の分科会や交流会を通し移住連の活動を実感し、また全国からいろいろな活動をされている方と出会い交流を持つこともできました。また、ダイアログでのサヘルローズさんのスピーチに感動した高校生が自分もこれから何か活動に参加したいとの質問に対し、まずは興味を持った国のお店へ行き、その国の料理を食べてください。そしてそこには必ずその国の人がいるのでいろいろな話をしてください。と答えたサヘルさんの言葉が心に残っています。

(にほんごのひろば：天明 尚子)

分科会「多様なルーツ～多様なルーツの人々をめぐるメディアと日常生活～」を選択しました。発表者は8人のいろんな国の両親を持つ当事者の若者達でした。彼らは日本で生まれ育ち20歳

になる時に日本国籍を選択する権利を持つ者です。質問の一つで、どちらの国籍を選択しますかと問われ、住んだこともない国のために徴兵されたくないのに日本と答える若者や両親が帰化したので日本を選択する、もう一つの母国を大事にしたいので日本以外と断言する人と様々でした。

8人全員が共通して感じていることは、日本は「ハーフ＝欧米系、エリート、語学力が高い」というイメージをメディアが植え付けたために、そうでない自分たちはとても暮らしづらくガッカリされるのは許せないという意見でした。

日本で生まれてきたのになぜ自分たちを日本人として見てくれないのか、見かけが違うだけで

なぜ虐めにあうのか。日本という国の特異性を突きつけられたようで、では日本人とは何なのかと、疑問が生れ、ただただ、頑張って生きてくださいという思いで会場を後にしました。

彼らはそれぞれが自分の置かれている問題に真摯に向き合い、自分たちの力で各方面にアピール活動をしています。

これからの時代に、彼らのような日本人はもっと増えていくでしょう。日本人として、日本を自分たちの国として尊敬できる環境になって欲しいと願います。

事務局 船津 清美

第25回日本語でスピーチ

2019年12月1日区民ホール・アプリコにて開催され、OCNetから2人発表者が参加しました。

「私の夢」

みなさん、こんにちは。私の名前はさくらです。おなづか小学校の6年生です。ネパールから来ました。日本に来て、2年になります。私の夢、My Dream、メロソプナを聞いてください。

私の夢は医者になる事です。私には、医者になると決めた理由が二つあります。

一つ目は、私が9才の時にテレビを見ていたら、重い病気にかかった患者さんが亡くなった目の前で、家族みんなが大変悲しんで泣いている姿を見た時のことです。このような家族を増やさないような医者になりたいと思いました。二つ目は、5年前に、近所に住んでいた親戚のおじさんががんで亡くなったときでした。おばさんと子どもたちが「医者がしっかり治療してくれなかったから亡くなった」と泣きながら言ったのを聞きました。私はとても悲しくなり、家族の気持ちが伝わってきて、いつか、重い病気を治せるりっぱな医者になりたいと思いました。

次に、私が日本に来て感じたことを話します。ネパールの医者と日本の医者では、どちらがやさしいと思いますか。もちろん、日本の医者です。

「日本での生活」

皆様、こんにちは。私は中国から来たガイサイと申します。本日のスピーチのテーマは、「日本

金賞 バタライ サクラ
ネパールはやさしい医者もいると思いますが、私がネパールでかかった医者は、やさしいと感じた人はいませんでした。日本に来て、歯医者、耳鼻科、小児科にかかりました。医者は、「痛くないよ。痛かったら手を挙げて」「大丈夫だよ」とやさしい言葉をいってくれたので、私は痛みが減ったような気がしました。そんなやさしさのある、心から患者さんを治そうとする医者になりたいと思いました。

そのためには、中学生になったら学校の勉強をし、高校生になっても、日本語と英語の勉強をしっかりやります。そして大学は医学部を目指したいです。外国人の患者さんには、できるだけ英語で詳しく説明して、やさしい言葉で助けてあげたいと思います。医者になるためには大変なことが起きると思いますが、私は、絶対に負けないように頑張ろうと思います。

今、私は家族から、いつも「勉強しなさい」と言われますが、いつか、「もう頼むから勉強しないで」と言われるぐらい、私は夢に向かって努力するつもりです。

艾 賽
での生活」としました。どうぞ、よろしくお願ひします。

日本に来る前、日本がアニメでしか見たことのない天国だと思い、毎日出かけて楽しい事ばかりだと思っていましたが、実際に来てみて、思ったのとすこし違うようです。なぜなら、私が夕方頃に電車に乗ると、寝ている人の姿をよく見かけます。きっと昼間に難しいことがあって、解決するのに頑張りすぎて、疲れたからだと思います。やはり中国も日本も、もっとよく生活していく為に、サラリーマンを始め、全ての人が様々なストレスを抱えながら、日々努力しているのだと思います。

私は主人と結婚してから日本に来ました。今三年半経ちました。日本に来たばかりの時、日本語は全然分かりませんでした。一人で電車すら乗ることもできませんでした。最初の二ヶ月間は、マンション近くのコンビニとスーパー以外、一人でどこも行けませんでした。主人はとても心配していたようです。ついに私は日本語を勉強しなければ

*スピーチの動画をこちらでご覧いただけます。

<https://www.ota-goca.or.jp/post-3062/>

その他の活動報告

■多言語無料相談会

9月14日(土) 場所: mics おおた「教室」

レガートおおたと一緒に開催しました。

相談件数は8件(7名)で、弁護士4件、行政書士2件、生活一般1件、行政手続1件でした。相談者はフィリピン、中国、ネパール、ロシア、バングラデシュの方々でした。

(葵 佐代子)

■高校進学ガイダンス

11月24日(日) 場所: 都立六郷工科高校

当初10月13日(日)の開催予定でしたが、台風19号の上陸で延期となり、11月24日(日)に開催しました。

参加人数: 98人 内訳: 生徒22人、家族等20人、見学者6人、スタッフ50人

生徒は、中国、フィリピン、ネパール、ガーナ、エチオピア、パキスタン、シリアの方々でした。

今回は、都立六郷工科高校が共催団体となり、希望者に校舎内見学もさせていただきました。

(葵 佐代子)

■忘年会

12月8日(日) 場所: 山王会館

参加者 学習者16名(子供11名) スタッフ23名

皆様からの投稿を募集しています。

発行・発行／一般社団法人 OCNet

URL: <http://www.ocnet.jp>

住所: 〒144-0051 東京都大田区西蒲田 6-36-14 TTK マンション 1F

Address: 1F, 6-36-14 Nishikamata, Ota-ku, Tokyo, 144-0051

TEL & FAX: 03-3730-0556 E-mail: jimukyoku@ocnet.jp